

中学校音楽科採点基準

4枚のうち1

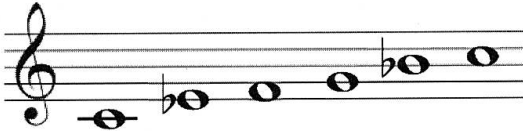
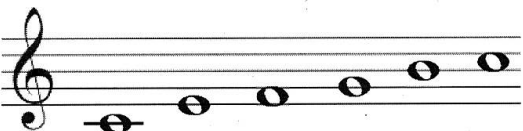
【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号			正 答 〔例〕		採 点 上 の 注 意	配 点	
1	1	(1)	作品名	オペラ座の怪人	内容を正しく捉えてい れば、表現は異なってい てもよい。	各 3 × 6	1 2 1
			作曲者名	ロイド・ウェバー			
		(2)	作品名	レ・ミゼラブル			
			作曲者名	クロード＝ミシェル・シェーンベルク			
		(3)	作品名	ウェスト・サイド物語			
			作曲者名	レナード・バーンスタイン			
	2	(1)	悲しく		内容を正しく捉えてい れば、表現は異なってい てもよい。	各 2 × 6	
		(2)	きっぱりと				
		(3)	任意に				
		(4)	ジョコーソ				
		(5)	だんだんせきこんで				
		(6)	デリチオーソ				
	3	(1)	(エ)			各 3 × 3	
			(ア)				
			(イ)				
		(4)				各 3 × 2	

中学校音楽科採点基準

4枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号			正 答 〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点	
1	4	(1)	(ケ)		各 2 × 8	
		(2)	(オ)			
		(3)	(イ)			
		(4)	(キ)			
		(5)	(コ)			
		(6)	(シ)			
		(7)	(ウ)			
		(8)	(サ)			
	5	(1)			各 5 × 4	
		(2)				
		(3)				
		(4)				
	6	※ 別紙 (計1枚)		問いを正しく捉えてい れば、内容は異なってい てよい。	4 0	

中学校音楽科採点基準

4枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点
2	題材名（「虹の彼方に」の旋律の特徴を生かしてアルトリコーダーを演奏しよう） 時間 学習活動 1 ○「虹の彼方に」の旋律を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。 ・「オーラ リー」及び「かっこう」を演奏して、聴き取ったことや感じ取ったことを学級全体で共有し、旋律の特徴が異なることを確認する。 ・旋律の特徴に気を付けて、再度、「オーラ リー」及び「かっこう」を演奏する。 ・「オーラ リー」及び「かっこう」と、教師の演奏する「虹の彼方に」の旋律を聴き比べ、聴き取ったことや感じ取ったことを自由に話し合う。 ○アルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりを理解する。 ・「虹の彼方に」の旋律を歌い、フレーズのつなげ方や息の使い方に気付く。 ・姿勢や息のスピード、サムホールの際間のつくり方などを様々に試しながら、「虹の彼方に」を演奏する。 ・グループで「虹の彼方に」を演奏し、「オーラ リー」及び「かっこう」の旋律と比較して気付いたことをグループで自由に話し合いながら、曲にふさわしい器楽表現になるよう演奏する。 ・アルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりについて理解したことをワークシートに記入する。	題材名及び学習活動は、問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	50
	2 ○アルトリコーダーの音色や奏法を生かして、「虹の彼方に」をどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。 ・グループで「虹の彼方に」を演奏し、コンピュータに記録する。 ・コンピュータに記録した演奏を聴きながら、アルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりを生かして旋律を工夫し、曲にふさわしい器楽表現にするためには、「虹の彼方に」をどのように演奏したらよいかを、演奏して試しながらグループで話し合い、必要に応じてワークシートに記入する。 ・コンピュータに記録した演奏やグループで話し合ったことを参考に、2分の2拍子の感じ方や速度、フレーズのつなげ方などを様々に試しながら、「虹の彼方に」を演奏する。 ・「虹の彼方に」をどのように演奏するかについての自分の思いや意図をワークシートに記入し、再度、演奏する。		
	3 ○創意工夫を生かした器楽表現で演奏するために必要な技能を身に付け、「虹の彼方に」を創意工夫する。 ・「虹の彼方に」を演奏し、グループごとに前時までの学習を振り返る。 ・グループごとに演奏し、「虹の彼方に」の模範演奏を参考にしながら、「アルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりを生かして旋律を工夫し、曲にふさわしい器楽表現ができているか」という観点で、互いの演奏を聴き合い、気付きや感想を伝えたり、グループの演奏を振り返ったりする。 ○題材の振り返りをする。 ・振り返ったことについて学級全体で意見交換し、本題材を学習したことへの価値を共有する。 ・学級全体で、「虹の彼方に」を演奏する。		

中学校音楽科採点基準

4枚のうち4

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点	
3		例えば、カンタータ「土の歌」の最終楽章である「大地讃頌」の曲想が、戦争を経験した作詞者の平和への願いや祈りが込められているという曲の背景によって生み出されていることを捉えさせ、強弱の働かせ方を試行錯誤しながら、表したい歌唱表現について考えさせる。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	14	
4	1	風の音、川のせせらぎ、動物の鳴き声、機械の動く音など、生活や社会の中に存在する様々な音を指す。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5	15
	2	自然音や環境音を意識して聴き、心地よさや不快な感じ、静寂や騒々しさといった生活の様々な場面での音環境を考えるなどの場面を必要に応じて位置付け、音環境への関心が高められるように配慮することが考えられる。		10	

1

6

著作権保護の観点により、掲載いたしません。